

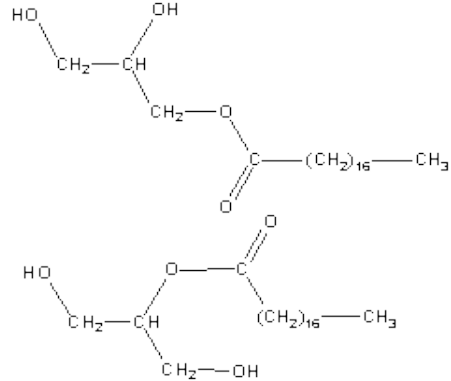
物質名 (SUBSTANCE NAME)

ステアリン酸グリセリル

物質の概要 (GENERAL STATEMENT)

ステアリン酸グリセリルはグリセリンとステアリン酸の化学反応により生成されるエステルです。
本要約書では、モノエステルを扱います。

化学的特性 (CHEMICAL IDENTITY)

項目	
一般名	ステアリン酸グリセリル
化学名(別名)	グリセリンステアリン酸エステル、ステアリン酸とグリセロールのモノエステル、 脂肪酸モノグリセリド、ステアリン酸グリセリド
CAS番号	31566-31-1
その他の番号	化審法官報整理番号: 2-669 EC番号: 250-705-4
分子式	C21H42O4
構造式	
出典・備考	NITE 化学物質総合情報提供システム(NITE-CHRIP)

使用・用途と適用 (USES AND APPLICATIONS)

主な用途	プラスチック、プラスチック添加剤、プラスチック加工助剤、 合成ゴム、ゴム用添加剤、ゴム用加工助剤
------	---

物理化学的特性 (PHYSICAL/CHEMICAL PROPERTIES)

項目	値
分子量	358.56 g/mol
外観	白色固体
融点	65 ~ 70 °C
水溶解性(25°C)	不溶

ヒト健康影響 (HEALTH EFFECTS)

影響項目	結果 (GHS危険有害性分類)
急性毒性(経口)	区分外
急性毒性(吸入-気体)	分類対象外
急性毒性(吸入-蒸気)	分類できない、但し急性毒性はないと考えられます。
急性毒性(吸入-粉塵/ミスト)	分類できない、但し急性毒性はないと考えられます。
急性毒性(経皮)	分類できない、但し急性毒性はないと考えられます。
皮膚腐食性/刺激性	区分外
眼に対する重篤な損傷性/刺激性	分類できない、但し眼に対する重篤な損傷性/刺激性はないと考えられます。
呼吸器感作性	分類できない、但し呼吸器感作性はないと考えられます。
皮膚感作性	分類できない、但し皮膚感作性はないと考えられます。
生殖細胞変異原性	分類できない、但し生殖細胞変異原性はないと考えられます。
発がん性	分類できない、但し発がん性はないと考えられます。
生殖毒性	分類できない、但し生殖毒性はないと考えられます。
特定標的臓器(単回ばく露)	分類できない、但し特定標的臓器(単回ばく露)はないと考えられます。
特定標的臓器(反復ばく露)	分類できない、但し特定標的臓器(反復ばく露)はないと考えられます。
吸引力呼吸器有害性	分類できない、但し吸引力呼吸器有害性はないと考えられます。
出典・備考	OECD SIDS Initial Assessment Profile Glycerides Category

環境影響 (ENVIRONMENTAL EFFECTS)

影響項目	結果 (GHS危険有害性分類)
水生環境有害性(急性)	分類できない。水生環境有害性(急性)を示さないと考えられます。
水生環境有害性(慢性)	分類できない。水生環境有害性(慢性)を示さないと考えられます。
オゾン層への有害性	オゾン層を破壊する物質に関するモントリオール議定書附属書記載の規制物質に該当しません。
環境中の移行性	土壤中の移動性はほとんどありません。
生分解性	良分解性
生物蓄積性	水生生物に対する蓄積性はほとんどありません。
PBT/vPvBの結論	PBT、vPvBに該当しません。
出典・備考	平成24年度第8回薬事・食品衛生審議会薬事分科会 化学物質安全対策部会化学物質調査会化学物質審議会 第122回審査部会第129回中央環境審議会環境保健部会化学物質審査小委員会 OECD SIDS Initial Assessment Profile Glycerides Category

ばく露 (EXPOSURE)

項目	ばく露
作業員ばく露	閉鎖系バッチでの合成あるいは調合作業において、メンテナンス、サンプリングおよび装置故障の際等に、作業員への経皮・吸入ばく露の可能性がります。
	専用設備での船舶／大容量コンテナへのor からの物質や調剤の移し替え作業において、粉じんの発生、流出、装置の清掃等に伴い、作業員への経皮・吸入ばく露の可能性がります。
	管理されたばく露のある閉鎖系・連続プロセスでの作業において、メンテナンス、サンプリングおよび装置故障の際等に、作業員への経皮・吸入ばく露の可能性がります。
	流出を最小化するように設計された条件での小容量コンテナへの物質や調剤の移し替え作業において、作業員への経皮・吸入ばく露の可能性がります。
消費者ばく露	プラスチック・ゴム製品の加工助剤として使用され、消費者が直接接触した場合に、経皮・経口ばく露の可能性がります。
環境ばく露	産業における物質の製造工程から、排水系統に放出される可能性がりますが、適切な排水処理施設で処理することにより、外部環境へ排出されることはほとんどありません。
	大気環境へ放出されることはありません。
	製品中から外部環境に放出されることはほとんどなく、放出された場合も比較的速やかに生分解されると考えられます。

推奨するリスク管理措置 (RISK MANAGEMENT RECOMMENDATIONS)

項目	推奨するリスク管理措置
対作業員ばく露	最新のSDSを入手し、SDS記載のガイダンスに従ってください。 作業の際は、化学物質の皮膚や眼への直接的な接触を避けるために、ゴーグルや保護メガネ、手袋、安全靴、ヘルメットなどの適切な保護具を着用してください。
対消費者ばく露	本化学物質を含有する製品の使用において、取扱説明書に従った適切な使用方法では、人に悪影響をもたらすレベルのばく露はないと考えられます。
対環境ばく露	適切な排水処理施設を設置してください。また、漏洩防止策を講じてください。

法規制情報 (REGULATORY INFORMATION)

法律	内容
化審法	一般化学物質
消防法	指定可燃物 可燃性固体類

連絡先 (CONTACT INFORMATION WITHIN COMPANY)

会社名	
住所	
担当部門・担当者	
電話番号/FAX番号	

発行・改訂日(DATE OF ISSUE/REVIEW) その他の情報 (ADDITIONAL INFORMATION)

初版: 2018年12月25日

改訂情報:	改訂日	項目	改訂箇所

特記事項: なし

免責事項 (DISCLAIMER)

この製品安全性要約書の目的は、対象品の情報を概要として提供することであり、リスク評価のプロセス及びヒト健康や環境への影響などの専門的な情報を提供するものではありません。

また、安全性データシート(SDS)、または化学品安全性報告書(CSR)などのリスク評価書に代わる文書として作成されたものではありません。

また、記載内容は現時点で入手できる法令、資料、情報、データに基づいて作成しておりますが、いかなる保証をなすものでもありません。